

科目	体育・スポーツ史	担当	加藤 幹根	履修学年	1年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	選択	単位数	2単位

**【授業目標・到達目標】**

体育とスポーツにおける歴史を概観しながら、人とスポーツとの関りについて考察を深める。同時に教育としての体育において各時代の背景を考えながらその変遷をたどり、体育の今日的な役割と意義について考察する。これらの学習を通して自己の体育・スポーツ観確立を図り、将来、それぞれの立場で実践に役立つことを目標とする。

**【履修注意】**

体育やスポーツの歴史により一層の関心を深めるために、これまでに学んだ世界史や日本史について復習・整理に努める。さらに、体育・スポーツの将来を考えるために、新聞をはじめ様々な情報の収集・整理に努める。なお、教職課程(保健体育)履修者及びスポーツマネジメントコース希望者は必修科目であるから必ず履修すること。履修はスポーツ専攻学生に限る。

**【評価方法】**

定期試験、毎授業のレポート、課題を総合して評価する。10回以上の出席がないものについては評価の対象とはしない。

**【試験について】**

筆記試験

再試験対象者の条件： 不合格者のうち、課題レポートがすべて提出され、筆記試験が40点以上の者

**【予習・復習】**

学修時間は1単位45分が文部科学省指針である。本科目は2単位科目なので、90分の講義に対して90分以上の自宅学習(予習、復習)が必要である。なお、このシラバスを参考に事前に必ず教科書を読んで授業に臨み、さらに復習を行い授業内容の理解に努める。

**【教科書】**

書籍名：体育・スポーツ史概論 著者：木村吉次 出版社：市村出版

**【参考書】**

書籍名：体育史講義 著者：岸野他 出版社：大修館書店

**【その他の注意事項】**

**【授業計画・内容】**

回数	項目	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方 受講上の留意事項 歴史を学ぶ意義
2	体育とスポーツの概念と意義	体育及びスポーツとは何か 体育・スポーツの意義と役割
3	未開社会の体育・スポーツ	体育・スポーツの芽生えを未開社会の生活から探る
4	古代社会の体育・スポーツ	古代地中海文化圏における体育・スポーツと身体観を考える
5	中世社会の体育・スポーツ	中世ヨーロッパの身体観を体育スポーツについて考える
6	近世の体育・スポーツ	ルネッサンス期を中心にヨーロッパの体育・スポーツを概観する
7	近代の体育・スポーツ	パブリックスクールと体育・スポーツ 女性、戦争と体育・スポーツ
8	オリンピックの歴史とその意義	オリンピア競技祭 ケーベルタン オリンピックの課題と将来
9	諸外国の体育・スポーツの変遷	ドイツ、アメリカ、中国等の体育・スポーツ YMCA体育の意義
10	我が国における体育・スポーツⅠ	貴族・庶民のスポーツ 節会行事とスポーツ 武芸
11	我が国における体育・スポーツⅡ	明治時代から大正時代における体育・スポーツ 体操伝習所
12	我が国における体育・スポーツⅢ	昭和前期(終戦まで)における体育・スポーツ
13	我が国における体育・スポーツⅣ	戦後から今日における体育・スポーツ
14	我が国の学校体育・生涯スポーツ	「生きる力」と体育・スポーツ 行政と体育・スポーツ振興
15	これからの体育・スポーツ まとめ	スポーツとグローバル化 体育・スポーツとQOL
16	期末試験	15コマの復習・確認・総まとめ